

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立笹島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 450-0002

名古屋市中村区名駅4丁目19番1号

E-mail sasashima-e@nagoya-c.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 66名 女子 71名 合計 137名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「学ぶ力を身につけ、国際社会に生きる児童生徒の育成国際社会に生きる児童の育成」をテーマとして、ESDを国際理解教育と捉え、国を超えて相互に理解し合い、様々な課題を共に解決する力の育成を目標とした。

具体的には、「国際化」「伝統文化」「交流」を柱に、①「異文化理解に係わる学習」②「伝統文化に係わる学習」③「国際交流に係わる学習」を行った。

① 異文化理解に係わる学習

4年生では、JICAの施設を見学した。中国、フィリピン、カナダ、フランス、アメリカ合衆国などについて調べた。文化と日本の文化との違いについて調べていく中で、各国の学校生活と日本の学校生活との違いについて追求していきたいという課題をもたせることができた。そして、各国の学校生活について調べたことを基に、せりふやクイズを自分たちで考えて学級で発表した。また、発表に向けて、各国の衣装など、演出に使うアイデアを出すこともできた。

② 伝統文化に係わる学習

本校は、校内に学区の下花車二福神車の山車を保存しており、保存会の方を招き、からくり人形や山車の構造などを学んでいる。その際に、郷土芸能の保存や継承に携わる喜びや苦勞を聞かせてもらうことにより、200年以上引き継が

れている山車や地域の祭りに込められた思いの深さを感じ取ったり、「もっと山車について知りたい」「地域のお祭りに参加してみたい」などと地域を愛する心を高めたりすることができた。

③ 国際交流に係わる学習

6年生では、地域学習や異文化理解学習の経験を生かしながら、互いの郷土のよさを伝え合うプログラムを行った。コンピューターや書籍を用いて調べ活動を行った。発表会では、母国や文化などについて発表していった。

自分たちが調べた国について、お互いに発表し合い、外国の文化の理解を深めていくことができた。



異文化理解に係わるキャプチャー



伝統文化に係わるキャプチャー



国際交流に係わるキャプチャー

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<http://atlas.cdx.jp/nations/nations.htm>
<http://pathfinder.nul.nagoya-u.ac.jp/theme/kuni>
キッズペディア 世界の国ぐに（小学館）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成している。ユネスコスクール加盟時は、国際理解、地域の伝統文化の領域に限定し、総合的な学習の時間に関連させて実践を行っていたが、毎年成果と課題をふまえ、指導内容を少しずつ変えている。児童の実態や保護者からの要望、教師の専門性を考慮し、学校に求められる「〇〇教育」も整理しながら教育課程を加除修正している。校内での研修を行い、指導方法について共通理解を図るとともに、積極的に地元の方を招き、適切に指導できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

日頃から課題解決型の学習過程を展開するため、研修や授業公開を行っている。授業公開後には、授業検討会を行い、今後の指導に向けて共通理解を図ったり、情報交換したりしている。継続して活動に取り組めるようにするために、児童や教職員に過剰な負担がかからないようにすることが大切であると考え、昨年度の活動をベースに児童の実態と教師の専門性をふまえて修正しながら活動するように努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、1月に児童と保護者、教職員を対象に学校での活動についての評価を行っている。結果は次年度の活動にそれぞれ生かせるようにしている。またそれぞれの結果を学校関係者評価委員会で公表して意見をいただき、それも活動に生かしている。主な成果としては、社会に出た時に役立つ力を着実に身に付けつつあることや、ニーズに合わせて多様な活動を展開していることが挙げられる。今後教職員が入れ替わる中で、どう継続していくかが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子は、その都度、学校だより・学年だよりに掲載し、保護者に伝えている。またそれを学校ホームページでも公開し、広く発信している。また、「東海テレビ」の取材を受け、『あいちてる』という番組にESDの取り組みが掲載された。学校の伝統文化を大切に育てる子どもを育てる取り組みを評価していただき、今後の継続した取り組みを期待されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

名古屋ライオンズクラブの服部宏さんに来校していただき、本校の取り組み状況を説明するとともに、堀川の歴史や生き物、保存計画などについて話していただいた。これまでの取り組みに対する評価をいただくとともに、今後の活動についての助言をいただくことができた。

また、体験活動を進めるにあたって、「堀川まちづくりの会」「名古屋市
中村区社会福祉協議会」「まちづくり推進計画室」などの協力によって行うことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加し、早稲田大学教授の池田清彦氏による講演やユネスコスクール実践校の発表を聞いた。この研修会に参加したことで、本校の取り組みを継続していくための参考とすることができた。また、今後、交流をしていくことの大切さについても実感した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコス쿨の活動を継続していることで、課題解決学習が定着してきている。また、課題解決学習を進めるにあたって必要な基礎的な学力を向上させること、話し合いや表現の力を高めることにも力を注ぐことになり、児童に力が身に付きつつある。また、教員の授業力向上にもつながっている。

多様な人とのつながりを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童も増えてきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度の実践の成果と課題、児童の実態等をふまえながら、活動計画を作成する。大きな変更は行わず、児童や教職員の過度な負担がないように配慮していく。外部の専門家による授業や講演は、児童・保護者・教職員に好評であり、ESDの推進にあたって効果的であると考えられるため、積極的に活用していく。

今年度は、人権・平和の領域にも取り組んだ。今回は試行としての実施であったため、単発な扱いになってしまったが、他の領域と関連を図ることで、効果的な学習を展開できると考える。人権・平和の学習の充実をしていきたい。

さらに、キャリア教育・自殺予防教育・防災教育・消費者教育などの視点からも活動を見直し、活動を推進していきたい。